

D-10 近世における大都市の衣生活に関する教材調査（第1報）

和洋女子大 鈴木 咲子

1. 本発表は、近世の大都市において展開された衣生活が、往来（庶民教科書）の教材内容に、どのようなかたちで映しだされているかについて、明らかにすることを直接のねらいとしている。ここで、大都市というのは、当時、人口30万以上をようした都会、すなわち、江戸・京都・大阪の3府をさす。これらの都市でくりひろげられた衣生活と教材化された記事内容のうちには、今日のその萌芽となっているものが少なくないので、この点を追究することによって、現時点における家庭教育のありかたについて、有意義な示唆をえようとした。

2. 江戸往来、続江戸往来、大阪往来、売得往来をはじめ、大都市に関する往来、188種をとりあげ、これらが収録した3,469の教材群について、さまざまな角度から統計的な処理をほどこすとともに、これらの教材のひとつひとつについて、その質的検討をおこなった。そして、衣服史・服装史の一般的な流れと対応させながら、これらの教材がもつ意義と特徴について吟味した。

3. 第1報としての本発表では、江戸の衣生活とその教材化の動向を中心とする。この動向が、近世初期から後期へ、後期から近代の初頭へと、いかなる変遷、脱皮をとげていったのか、また他の諸都市や農村漁村におけるそれらとどのような変異性ととともに、共通性をもっていたかを明らかにしてその進歩性と限界を考察する。